

特集「訪問看護支援事業」を次なる一歩へ

訪問看護の プラットフォーム 戦略II

2009年度からの厚生労働省「訪問看護支援事業」が本年3月で終了した。
4年間で合計30道府県市が取り組んだ「同事業の目的は、

「訪問看護サービスの安定的供給」と「在宅医療の充実」だ。

各地域の特性やニーズに応じた取り組み内容は創意工夫に富み、

訪問看護のプラットフォーム(基盤)を拡げ強固にするヒントに溢れている。

国庫補助金終了後も、次なる事業に引き継がれたり、独自に取り組みを継続するなど、
新たな展開も始まっている。

事業の枠組みを越えた、数値には表わせない「目には見えない」大きな成果も。

訪問看護が「丸」となって、いかに超高齢・多死社会に備えるか。

同事業の4年間の成果と実践報告から、今後の「戦略」を展望する。

2011年～

2010年～

2009年～

Platform Strategy II